欧米の保育事情と小児保健の問題を組み入れた保育英語の研究・開発

前野澄子（初等教育学科・講師）
田川悦子（初等教育学科・助教授）

〖研究目的〗

近年、大学においても、専門分野、あるいは職業上役に立つ、実利性のある英語が求められてきている。大学英語教育界では専門英語（English for Specific Purpose, ESP）という分野が注目され、法律英語、医学英語、薬学英語、航空英語、政治・経済英語など、専門領域が徐々に増えてきている。専門英語としての保育英語の開発は、本学の保育・幼児教育分野の学生にとり極めて有意義であると考えられる。また、研究対象としては先駆的なものである。

本研究においては、日本国内の国際色ある保育所・幼稚園等の聞き取り調査を行い、さらに一般の保育所・幼稚園の現状把握のために質問紙調査を行う。また、英国、米国、カナダなどの英語圏における保育・幼児教育の現状に関して文献調査および現地における面談、取材等の調査を行い、保育英語という専門英語分野の研究、開発を図るものとする。

〖研究計画〗

平成17－18年度　（1）ＥＳＰ（専門英語）分野に関する先行研究および文献調査
（2）国内の保育所・幼稚園等の聞き取り調査および質問紙調査
（3）英語圏諸国の保育事情調査（現地取材および調査）
（4）小児保健に関する諸外国および日本の事情調査

平成19年度　（1）各リサーチの結果を英語で編集
（2）保育英語の開発
（3）研究報告書の作成

〖研究成果（中間報告）〗

平成17年度はまず英語圏の保育事情現地取材および調査を行うこととし、8月に米国カリフォルニア州サンフランシスコ市内保育施設（C Preschool）を視察（田川）、9月に米国ワシントン州シアトル市郊外のベルビュー市内保育施設（S Preschool, M Preschool, N Preschool）を視察（前野）した。

その結果、米国の保育施設と日本の保育施設では、制度、内容、保育者の資格等において、必ずしも単純に比較を行えない点があることを確認した。

英語面においても、日本の保育専門家の中では、日本の幼稚園と米国の preschool 、日本の保育園と米国の childcare center を同一視する向きもあるが、必ずしもそうではなく、各々独自のものがあることが明らかになった。また、kindergarten（通称 kinder）という言葉に関しても日本では単純に「幼稚園」と理解する傾向があるが、米国のそれは州で定められた義務教育であり、日本の「幼稚園」とは同じではないことを確認した。米国の preschool、kindergarten、childcare center と日本の幼稚園、保育園との違いはさらに詳細に検討する必要があることを認識した。

「保育者」という言葉についても、米国ベルビュー市で聴取した限りにおいては、広義に child caregiver という言葉が使われていた。

さらに、多様な米国社会にあって、いかなる偏見をも排除するための教育を幼少時から行うことが大切とされ、そのために、保育者が適切な指導を幼児に行えるよう、保育者養成機関において anti-bias education を推し進めることが、現在一つの大きな焦点となっているとのことであった。

今後の予定としては、今年度から次年度にかけて国内の保育所・幼稚園等の聞き取り調査および質問紙調査を行い、さらに英語圏諸国の保育事情調査（現地取材および調査）を続行することとしている。

本稿は、鎌倉女子大学学術研究所助成研究「欧米の保育事情と小児保健の問題を組み入れた保育英語の研究・開発」の平成17年度中間報告である。